
友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ
津山洋学資料館友の会

2022 August No.12



資料館中庭のチョウセンアサガオ 7月27日撮影（2ページに関連記事）

CONTENTS

チョウセンアサガオが開花しました	2
トピックス	
資料館細見	
友の会会員募集中 !!	
友の会のあゆみ ⑧	3
蘭学・洋学史跡探訪 ③	4
葉草の小径から ⑨	
編集後記	

華岡青洲ゆかりの花

チョウセンアサガオが開花しました

この夏、資料館の中庭では、チョウセンアサガオ（マンダラゲ）の花が次々と開花しました。これは美作市海田にある、古くから医家を営んできた山田家から種を分けていただき、下山純正顧問が自宅の庭で増やした種を小林圭子副会長が譲り受けて発芽させ、5月29日（日）に資料館の中庭に移植してくださったものです。移植から約1ヶ月後の6月下旬から白い花が咲き始めました。



山田家のチョウセンアサガオ チョウセンアサガオ

紀州の華岡青洲はチョウセンアサガオを原料に麻酔薬「通仙散」を作り、文化元年（1804）、世界で初めての全身麻酔による乳がん摘出手術を成功させました。その高名を慕って、青洲の開いた医塾には全国から多くの弟子が集まり、山田純造もまた幕末に大坂にあった分塾・合水堂で学んでいます。山田家の花は、修業を終えた純造が帰郷する際に持ち帰ったとも言われています。



トピックス

創立40周年記念誌
40年のあゆみ刊行間近!

お待ちせしています友の会創立40周年記念誌『40年のあゆみ』は、編集作業が進み、現在校正を行っています。

創立から30周年までのあゆみは、これまでに刊行された記念誌で詳細に紹介されていますので年表形式で簡潔にまとめ、31年から40年までの10年間の活動について資料館機関誌や「友の会通信」をもとに詳しく振り返っています。将来に向けて伝えていきたい友の会事業を記録し、今後のさらなる活動の充実につなげてまいります。もうすぐお手元にお届けできますので、お楽しみに！

資料館細見 ～図書室の壁紙～



洋学資料館の図書室をじっくりご覧になったことはありませんか？ 野バラ柄の壁紙は、イギリスの思想家、詩人でデザイナーだったウィリアム・モリス（1834～1896）の手がけたもの。ワインレッド色の本棚とも相俟って、重厚で落ち着いた雰囲気を出しています。

友の会会員募集中!!

友の会では、随時会員を募集しています。友の会に入会いただき、

- 研修バス旅行、史跡見学会、オランダ料理の夕べなど、友の会主催行事への参加
- 洋学資料館入館料の免除
- 図録・研究誌などの刊行物や機関誌、友の会通信、行事案内の送付
- 津山郷土博物館の入館料の割引（2割）などの特典があります。

ご家族やご友人で関心がおありの方がいらっしやいましたら、ぜひお声がけください。一緒に楽しみながら洋学を学びましょう！



平成 22 年 3 月 19 日に行われた洋学資料館新館開館式のテープカットの様子

友の会創立 40 周年を記念して
 未来に向けて記録に残しておきたい
 ～あんな出来事・こんな出来事～

友の会のあゆみ ⑧

「友の会のあゆみ」ではこれまで「オランダ料理のタベ」や「ロシア料理のタベ」、「ライデン事業」や「宇田川家墓所移転」、「箕作家墓所整備」などのあゆみを振り返ってきました。今回は友の会とも関わりの深い、資料館の新館建設について、思い出をお話しいただきました。

小林圭子編集委員 今回は、友の会の思い出というわけではないのですが、津山洋学資料館の新館建設についてお尋ねしたいと思います。その前に少し復習しておきましょう。

昭和 50 年に箕作阮甫旧宅が国の史跡に指定され、解体復元されたことをきっかけに、郷土ゆかりの洋学者を顕彰しようという機運が高まりました。昭和 53 年 3 月 19 日、中国銀行から市に寄贈されていた津山東支店（旧妹尾銀行林田支店）の建物を活用して、全国的にも珍しい洋学を専門にした津山洋学資料館が開館しました。

以来 31 年にわたって、洋学に関する資料の収集や保存を行い、収蔵資料は開館時の約 600 点から 9400 点と 10 倍以上に増加（現在は約 14000 点）。また、特別展や講演会などを通じて洋学知識の普及に努めてこられました。

渡部紀子編集委員 その一方で年々増加していく資料の収蔵場所不足が長年の懸案となっていたそうです。そこで城東町並保存地区へ新築・移転し、箕作阮甫旧宅と一体的に整備しようという計画が立てられ、平成 20 年に新館建設工事が着工、平成 22 年 3 月 19 日に開館

されました。今から 12 年前に新館が完成したわけですが、その当時のお話を聞かせてください。

下山純正顧問 新館建設が始まると建築家、業者、専門家などいろいろな人たちが入り交じって、目的達成のために懸命でした。やっとのことで迎えた開館式典では、万感こもごも胸にこみ上げてきました。新館建設までには、本当に様々なことがありましたね。友の会を通じて、長年活動されてきた皆さんには理解していただいていると思うのですが、津山洋学資料館を知らない市民の皆さんにも、「津山の洋学」の素晴らしさが浸透するように、多くの事業に取り組んできました。

全国的にも先進的な試みとして「オランダ料理のタベ」や「ロシア料理のタベ」を企画しましたね。また、オランダ王国全権大使や総領事にも度々来館していただきました。洋学者顕彰のためにオランダに向いたこともありました。洋学に関心の薄い方でも、そういう記事が新聞に掲載されると興味津々ですよ。新聞の大見出しが目に見え込んで、資料館ではそんな事があったのかと記憶に残りやすから、そういう積み重ねによつ

て徐々に市民の皆さんへも浸透していったと思います。新館建設事業が具体化されるまでには、30 年という歳月がかかりましたね。

小林 友の会活動は、新館建設にどのような役割を果たしたのでしょうか。

下山 ここで忘れてならない大切なことは、洋学資料館友の会が実施してきた多彩でユニークな事業のことです。市が行う事業というのは調査、研究、展示、学会誘致など、必要ではあるけれど地味な事業が中心ですね。ところが、友の会が取り組んだ「料理の会」や「音楽の会」「墓地整備事業」「洋学関連史跡整備」などの取り組みが広く「洋学」というものを浸透させていったということです。これが新館建設への大いなる一助になったことは言うまでもありません。ここに友の会の存在意義があると思います。

小林 「楽しく洋学を学ぶ」をテーマに設立した友の会の活動が、結果的に新館建設の大きな一助になっていたとは、私たち会員にとつて嬉しい限りです。

下山 町並み保存も含めて、城東地区の中核施設となるように資料館は建設されましたが、その後の変

化は皆さまご存じの通りです。知的観光の名所として資料館への期待は大きいと思います。友の会事業も今後益々充実させていきたいものです。

渡部 今回は新館建設当時のことを振り返りながら、友の会の存在意義を改めて実感することができました。早く以前のように、楽しいソフト事業が開催できるようにあって欲しいですね。

小林 友の会発足から41年。こうして対談形式で年代順にお聞きしていますが紙面には掲載しきれない事業がたくさんあります。近々発行される友の会の記念誌を楽しみにしています。今回もありがとうございます。



エキナセア キク科

アメリカ原産の多年草。6月中旬から8月ころにかけて赤やピンク、オレンジなどの色とりどりの花を咲かせます。アメリカ先住民によって伝統医学に用いられてきました。

雑草の小径から ⑨

蘭学・洋学 史跡探訪 ③

〜ハルマ和解のゆかりの地を訪ねる〜
(鳥取県鳥取市・京都府京都市)

会員 松浦信輝

今回は宇田川玄真が加わった日本最初の蘭日辞書『ハルマ和解』ゆかりの地を訪ねます。

蘭学が広まってくると、オランダ語の辞書があると便利だと考える人々が出てきました。しかし、この辞書作りは並大抵のことではなく、志半ばで挫折したり、寿命を縮める人も居りました。その中でオランダ通詞の西善三郎が始めた辞書作りを、鳥取藩の稲村三伯がその遺志を継いで、フランソワ・ハルマの蘭仏辞書を基に、蘭日辞書を苦心して寛政8年(1796)に作り上げました。

その作業に玄真も加わりましたが当時は安岡玄真と言う名前でした。出来上がった辞書は『ハルマ和解(波留麻和解)』、通称江戸ハルマとして知られています。

稲村三伯が鳥取藩医であったことから、現在、鳥取市内に三つの碑があります。川端三丁目に「三伯生誕之地」、戎町の鳥取県医師会館前に「ハルマ和解完成二百年記念の碑」、本町の遷喬小学校前には三伯のレリーフ像のある「記念碑」があります。

三伯は後に脱藩して海上隋嶋と名を改め、京都蘭学の礎を築きました。隋嶋の墓は京都市左京区の大恩寺にあります。

アクセス

遷喬小学校・鳥取県医師会館・生誕地 いずれも近隣でJR鳥取駅よりの北へ徒歩約十分

大恩寺 左京区東大路二条下る北門前町
京都市地下鉄東山駅よりの北へ徒歩約六分

参考文献

京都府医師会『京都の医学史』思文閣(一九八〇)
森 納『稲村三伯のハルマ和解完成二百年記念事業』日本医学史雑誌四十二巻二号(一九九六)

編集後記

今年は6月に梅雨が明け、早々と長い夏到来と思いきや、戻り梅雨のような天気が続く、異常気象が日常になった昨今です。

さて、今年は、コロナ禍を経て「3年ぶりの」と銘打つイベントが多くなりました。友の会恒例の「研修バス旅行」も2020年、2021年は中止しています。状況を見ながらですが、「3年ぶりの研修バス旅行」がそろそろ実施できるのではないかと、編集会議でも話題になりました。鳥根県の津和野なども候補にありましたが、と、この後記を書いてみると第七波に突入の報道。連日爆発的な数の感染者が報じられています。今年もまだ研修バス旅行は無理でしょうか。

新型コロナウイルスの感染拡大も長期化して、収束もまだ見えません。暗く暑い日々が続きます。皆様健康第一にお暮らしてください。(A)

津山洋学資料館友の会通信 第12号

令和4年8月

編集・発行

津山洋学資料館友の会

事務局 〒708-0033

津山市西新町5

津山洋学資料館内

☎ 0868-23-3324